

特集

「ケアの意味を 見つめる事例研究」 の実践への拡がり

「ケアの意味を見つめる事例研究」は、山本則子先生（東京大学大学院医学系研究科）が検討を開始されてから7～8年の歳月を数えます。この間、セミナーや学会、そして論文発表などさまざまな形で報告を重ねつつ、本事例研究は一層の精錬に向けて開発が続けられてきました。本誌でも2018年に特集として山本先生に企画いただいて以来、折々、その進化のプロセスを多様な視点から取り上げています。

今回は、「現場発の展開」を中心に考えていきます。「ケアの意味を見つめる事例研究」は、実践者である臨床の看護師の方々からも高い関心を集めており、現場における活用への期待が益々大きくなっています。そこで本特集では、本事例研究を実際に導入して成果をあげている3つの現場の取り組みについてご紹介します。「ケアの意味を見つめる事例研究」の実践への拡がりとしらなる可能性を探るとともに、看護学の新たな実践知を見いだす契機となれば幸いです。

『看護研究』編集室

企画：山本則子 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻

高齢者在宅長期ケア看護学／緩和ケア看護学分野教授